

多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会

日時：12月28日10時～12時

場所：経済産業省本館地下2階講堂

議題：（風評被害対策等）

福島県農業における風評・市場 対策と漁業との相違

小山良太

福島大学食農学類準備室

【7年～現状】

- 消費者の懸念30%→10%台（消費者庁、関谷）
- 季節性農産物 市場回復傾向
- 貯蔵性農産物（米・肉） 市場構造の変化
- 海外（近隣諸国） 様々な理由で輸入規制

【要因、対策】トータルに安全性を確認

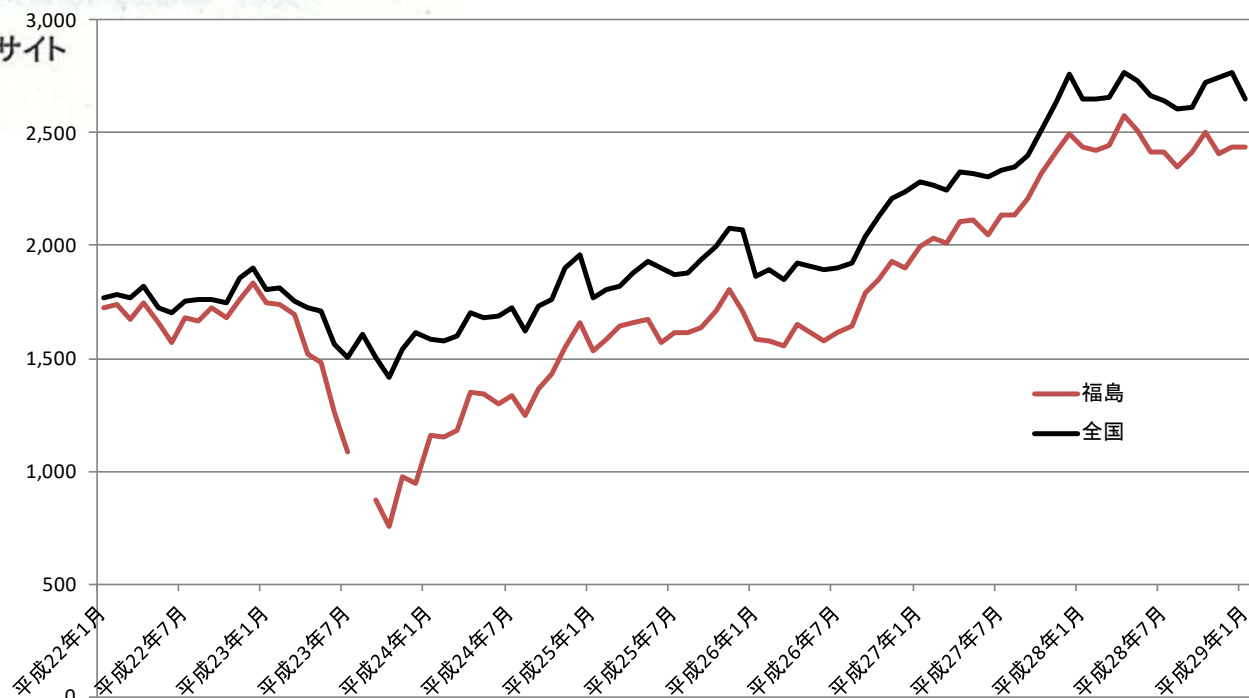
- ①産地における放射能汚染対策
- ②流通過程における検査体制の整備（基準値超え減少）
- ③小売店舗での販売（新規市場開拓）
- ④消費者意識の変化（安全性、風化）

(円/kg) 東京都中央卸売市場の和牛枝肉価格

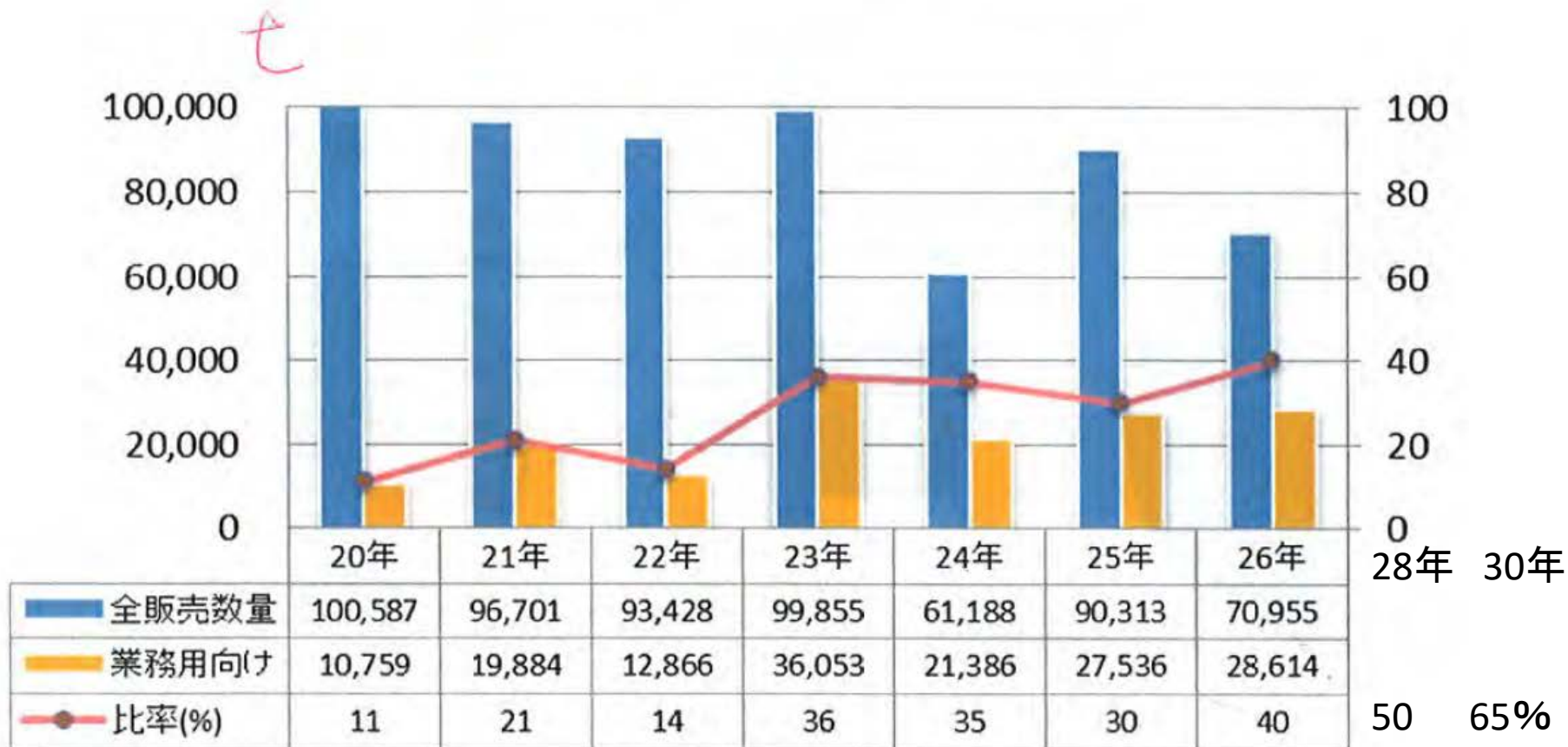


貯蔵性の作物。畜産物・穀類
では代替産地へ転換
市場取引順位の低下
＝市場評価の低下が固定化

資料 東京都中央卸売市場ウェブサイト
(注) 生体枝肉の価格。



全農福島の業務用向け販売の推移



全農福島県本部資料より作成

沖縄県(福島県産米3.8%移出、県内シェア10%)

2016年6月



2018年12月



2017年2月



2016年 1kg=350円
2017年 1kg=396円
2018年 1kg=440円

福島県における放射能対策の考え方

入口(生産)から出口(流通)までの体系立った放射能対策

1 土壌の測定

JAグループ福島では、安全な農産物を生産するため、福島県や福島大学等関係機関の協力を得て、田んぼや畑などの農地の土壌調査を実施しています。

具体的には、震災直後の平成23年に国や県が測定した県内ほぼ2,000地点と同一ほ場で土壌を採取し、放射性物質濃度を測定(3年前と比べどの程度低減しているかを確認)するとともに、農作物が放射性物質の吸収を抑制する効果のある交換性カリウムが土壌中にどのくらい含まれているか(※注)を測定し、結果を生産者に通知し土壌改良していただくとともにJAの営農指導活動に役立てています。

(※注) 水稻では乾燥土壌100g中に交換性カリウムが25mg以上含まれていることが理想です。



採土管で田んぼのサンプル土壌を採取



ゲルマニウム半導体検出器を用いて土壌の放射性物質濃度を測定

以前調べた同じ場所の土壌を採取して調べるのね。



3 農畜産物の測定

生産された米は、「食品中の放射性セシウムスクリーニング法(厚生労働省)」に基づき、ベルトコンベア式検査機器による全量全袋検査を行い安全性を確認しています。

園芸品目(野菜・果実・きのこ・山菜等)は、JA独自の取組として、スクリーニング法に基づく出荷前全品目全戸検査を行い安全性を確認しています。

牛肉は、出荷された肉牛の全頭検査を出荷先で実施し、安全性を確認しています。

このほか県では、出荷前に出荷する全ての品目についてモニタリング検査を実施し、安全性を確認しています。

スクリーニング検査 産地での自主検査 米の全量全袋検査 果実・野菜の農家ごとの検査



モニタリング検査 福島県による検査 主要品目や摂取量の多い品目の検査体制を充実・強化

スクリーニング検査とは、生産現場で広く生産物の放射性物質を測定するため、ベルトコンベア式で生産物の全量全袋検査を行います。また、一定以上の放射性セシウムが検出された場合には、ゲルマニウム半導体検出器を用いて詳細検査を実施します。

安全性を確認しているのね。



店頭での農畜産物は、たくさんの対策・検査を経て販売されています。

この取組は、日本学術会議が平成25年9月6日に公表した「原子力災害に伴う食と農の『風評』問題対策としての検査態勢の体系化に関する緊急提言」の4段階の検査態勢を踏まえた取組内容となっています。

消費者等への情報提供
Provide information to consumers

安全・安心の確保
Ensure the safety and security

2 吸収抑制対策

土壌中の放射性物質を取り除いたり、作物が養分を吸収する土の層(実際に根が張る地面から約10~15cmまでの層)の放射性物質濃度を下げるため、農地の状況に応じて、表土の削り取りや土壌の大地返し、土壌をていねいに深く耕す作業に取り組んでいます。

また果樹類は、原発事故の影響により放射性物質が空中飛散し、その後降下して木の表面に放射性物質が付着したことから、木の表面を削ったり、高圧洗浄機で放射性物質を洗い流したり、古い枝を切ったりする作業に取り組みました。

さらに、できるだけ放射性物質を作物が吸収しないよう、必要十分なカリ肥料(上記1参照)を散布しています。放射性セシウムはカリウムと化学的性質がよく似ているため、十分なカリウムを散布し放射性セシウムの吸収を抑制します。



土壌の大地返し(反転耕)



高圧洗浄機によるモモの樹体洗浄



カリ肥料等の散布

吸収されないように様々な対策をとっているんだね。



4 消費者等への情報提供

消費者等への情報提供は、全国の生活協同組合や地産地消ふくしまネット等とも連携して取り組んでいます。また、消費者等がいつでも安全性を確認できるよう、測定結果はすべて公表されています。

JAが取り組む自主検査の結果は、ふくしまの恵み安全対策協議会または県内各JAのHPをご覧ください。県が行うモニタリング検査結果は、福島県のHPまたは「ふくしま新発売」HPをご覧ください。

JAが取り組む自主検査の結果



ふくしまの恵み安全対策協議会

<https://fukumegu.org/ok/contents/>

福島県が行うモニタリング検査結果



福島県

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021/dmon-kekka.html>

ふくしま新発売

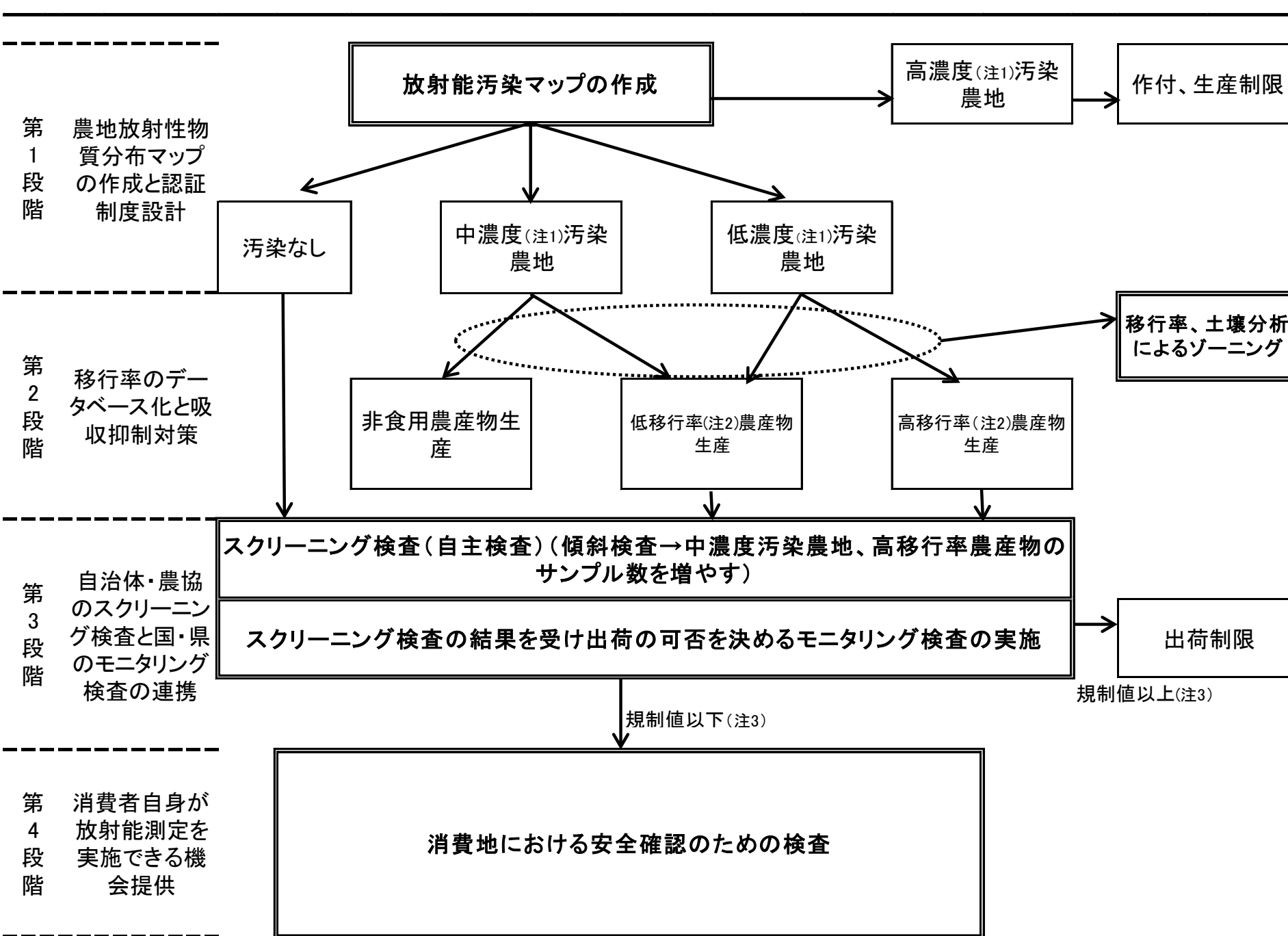


ふくしま新発売

<http://www.new-fukushima.jp/>

Webで測定結果がわかるんだね。





第3段階：全袋検査の結果(2018年12月12日時点)

	【2012年 度】	【2013年 度】	【2014年 度】	【2015年 度】	【2016年 度】	【2017年 度】	2018
25未満 (Bq/kg)	10,323,674 (99.78%)	10,999,220 (99.93%)	11,013,714 (99.98%)	10,454,908 (99.99%)	10,172,756 (99.999)	9,975,951	8,660,906
25以上 (Bq/kg)	20,357 (0.2%)	6,484 (0.06%)	1,910 (0.02%)	643 (0.006%)	415 (0.002)	32	43
50以上 (Bq/kg)	1,678 (0.016%)	493 (0.0045%)	12 (0.0001%)	17 (0.0001%)	7 (0.0001%)	0	0
75以上 (Bq/kg)	389 (0.0038%)	323 (0.003%)	2 (0.00002%)	1 (0.00001%)	0	0	0
100以上 (Bq/kg)	71 (0.0007%)	28 (0.0003%)	2 (0.00002%)	0	0	0	0
合計	10,346,169 (100%)	11,006,550 (100%)	11,014,640 (100%)	10,455,569 (100%)	10,173,178 (100%)	9,975,983	8,660,949

出典：「ふくしまの恵み安全対策協議会」より
<https://fukumegu.org/ok/kome/>

FGAP(ふくしま県GAP)と他の認証GAP

FGAP(ふくしま県GAP)は、放射性物質対策も含めた農水省ガイドラインに準拠したGAPにより県が認証する新たな制度です。

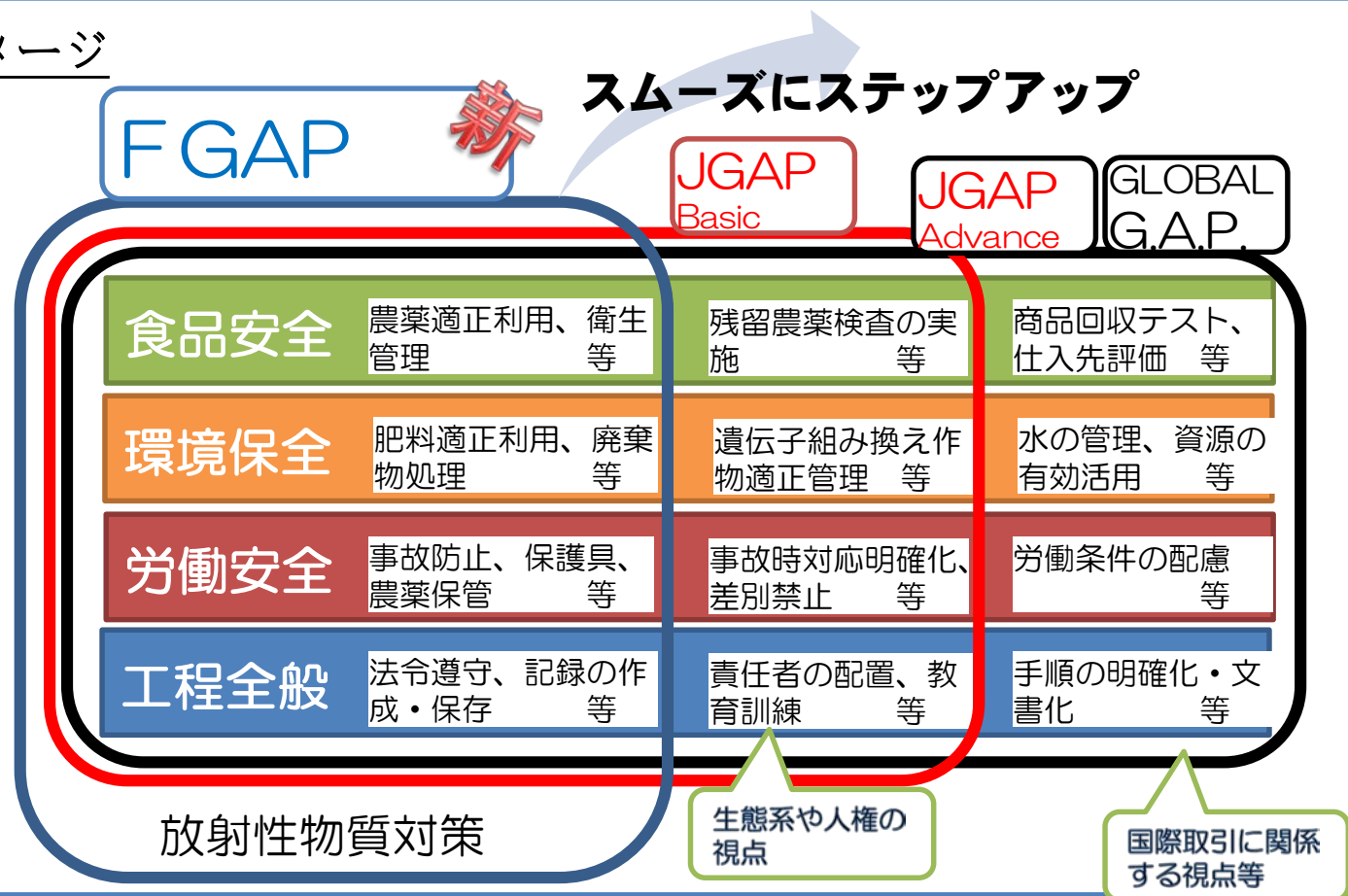
FGAPと他の認証GAPで求められる点検項目は同じではありませんが、取り組むべき基本項目(食品安全、環境保全、労働安全、工程全般の基本的な部分)は同じです。

例えば、JGAPやGLOBAL G.A.P.にあっては、FGAPの認証基準となっていない、生態系や人権、国際取引に関係する管理点(点検項目)が盛り込まれていることから、FGAP認証取得後、これらに追加的に取り組むことにより、他のGAP認証取得にスムーズにステップアップしていくことが可能です。

FGAPのイメージ

✓ 認証基準は、「福島県農産物安全確保のためのGAP推進マニュアル」及び「福島県安心きのこ栽培マニュアル」です。(対象品目は、米、麦、大豆・そば、野菜、果樹、きのこ)

✓ 他の認証GAPでは明確な基準がない放射性物質対策を詳細に規定しています。



農業と漁業における対策の相違

①農地と切り離れた農業（水耕栽培）

非食用農産物（花卉、エネルギー作物）

海水を使用しない漁業はない

②処理開始までの準備期間

原発「事故」と「処理」

③問題核種の特性

セシウム、トリチウム